

目次

国語 Vol.3

第一章 習得編

1	文学的文章 (1) (隨筆)	例題	確認問題	4
2	文学的文章 (2) (隨筆)		確認問題	8
3	文学的文章 (3) (隨筆)		練成問題	12
4	説明的文章 (1)	例題	確認問題	16
5	説明的文章 (2)		確認問題	20
6	説明的文章 (3)		練成問題	24
7	詩 (1)	例題	確認問題	28
8	詩 (2)		練成問題	32
9	漢字・語句 (1) (漢字の成り立ち) 部首／熟語の知識	例題	確認問題	36
10	文法 (1) (文の組み立て)	例題	確認問題	40
			練成問題	

第二章 定着編

11	文学的文章 (4) (小説)	例題	確認問題	44
12	文学的文章 (5) (小説)		確認問題	48
13	文学的文章 (6) (小説)		練成問題	52
14	説明的文章 (4)	例題	確認問題	56
15	説明的文章 (5)		確認問題	60
16	説明的文章 (6)		練成問題	64
17	短歌・俳句 (1)	例題	確認問題	68
18	短歌・俳句 (2)		練成問題	72
19	漢字・語句 (2) (類義語・対義語／ことわざ・慣用句など)	例題	確認問題	76
20	文法 (2) (品詞の分類ほか)	例題	確認問題	80
			練成問題	

第三章 演習編

21	文学的文章 (7) (隨筆)	84
22	文学的文章 (8) (隨筆)	88
23	文学的文章 (9) (隨筆)	92
24	説明的文章 (7)	96
25	説明的文章 (8)	100
26	説明的文章 (9)	104
27	古典 (1)	108
28	古典 (2)	112
29	表現・作文 (1)	116
30	文法 (3) (単語の識別)	120

第四章 実戦編

31	文学的文章 (10) (小説)	124
32	文学的文章 (11) (小説)	128
33	文学的文章 (12) (小説)	132
34	説明的文章 (10)	136
35	説明的文章 (11)	142
36	説明的文章 (12)	148
37	古典 (3)	154
38	古典 (4)	158
39	表現・作文 (2)	162
40	文法 (4) (文法総合)	166
付録	漢字練習 1 ~ 40	170

第二章 演習編

21 文学的文章 (7) (随筆)

練成問題

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

15 10 5

40 35 30 25 20

〈大江健三郎『自分の木』の下で〉より

□(1) 線①「それ」が指し示していることを本文中から書き抜いて答えなさい。

□(2) 線②「あらためて括弧を」といて、Aの内容を代入する、③「括弧を」といてみる」とありますが、これらと同じ手続きを言い換えていることを本文中から十一字で書き抜いて答えなさい。

□(3) 線④「骨折り損のクたびれもうけ」だった」が表している「私」の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 徒労感 イ 劣等感
ウ 充実感 工 違和感

□(4) 線⑤「最悪の『いじめっ子』の顔」とありますが、この「最悪の『いじめっ子』」の問題について、「私」はどう対処したのですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

- ア 最悪の「いじめっ子」の問題に対して、初めから逃げようとはせず、正面から立ち向かってゆこうとした。

イ 最悪の「いじめっ子」の問題に対して、それを忘れてしまおうとはせず、

ず、いつも心にかけていようとした。

ウ 最悪の「いじめっ子」の問題に対して、正面から立ち向かってゆこうとはせず、すっかり忘れてしまおうとした。

工 最悪の「いじめっ子」の問題に対して、すぐに解決しようとはせず、何とかしのいで時間をおいてみようとした。

□(5) 本文中で述べられている「ある時間」についての説明として適切でないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア「ある時間」が経過している間に、括弧に入れておいた難しい問題が自然に解決して、消えてしまっていることがある。

イ「ある時間」が経過している間に、自分が成長し、括弧に入れておいた難しい問題を解決できるようになることがある。

ウ「ある時間」が経過している間は、事態が記号に置きかえられていて、難しい問題についても論理的に考えることができる。

工「ある時間」が経過している間は、難しい問題が記号に置きかえられて直視しないうすむため、苦しい気持ちが軽減される。

□(6) 本文全体を、前半と後半とに分ける場合、前半はどこまでになりますか。その最後の十字（句点も字数に数えます）を本文中から書き抜いて答えなさい。

□(7) 本文につける見出しとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア「私」はどのようにして困難に対処してきたか。

イ「私」は、少年時代、どのような子供であったか。

ウ「私」は、数学にどのように取り組んできたか。

工「私」は、どのような方法でいじめに立ち向かったか。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。



25 20 15 10 5



〈西江雅之「伝え合い」より〉

50 45 40 35 30

□(1) 線①「その人々との間に、ふつうならば生ずるはずがなかった誤解を私は知らずに与えてしまっていたのである」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□①「私」は、ソマリアの人々にどういう誤解を与えましたか。「〜という誤解。」という形で書いて答えなさい。

--

□②「私」は、なぜ、ソマリアの人々との間に誤解が生じたと考えていますか。その理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ソマリアの人々にあまり教養がなかったから。

イ 老人だけにしか自分の言葉が通じなかったから。

ウ 自分が日本語でなく、イタリア語で話していたから。

エ 自分がソマリアの生活習慣を知らずに話していたから。

--

□(2) 線②「そのようす」についての説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア さまざまな部族の出身者が、一つの大都市に集まって、近代的な生活をしている様子。

イ さまざまな部族の出身者が、各々の風俗習慣は残しながら、共通語を用いて生活している様子。

ウ さまざまな部族の出身者が、各々の風俗習慣や言語の相違をそれほど問題にせずに生活している様子。

エ さまざまな部族の出身者が、共通語で会話をすることによって、意志の疎通をうまく図って生活している様子。

--

□(3) 線③「私たちの属している世界での事態はその逆だ」とありますが、「私たちの属している世界」では、物をもらった時にはどうすることが当然だと考えられていますか。書いて答えなさい。

--

□(4) ①・②に入る最も適切なことばを、それぞれ次から選び、記号で答えなさい。(同じものは二度選べません)

ア たいした物をあげてないのにそんなに感謝するなんて

イ だまって物をくれるなんて、優しい心づかいをする人だ

ウ なんだ、こいつはそんな程度の奴だったか、礼儀知らずだ

エ 物をくれておいて感謝の言葉も言わないとは……

オ なんと。すばらしく礼儀をわきまえているやつだ

①	
②	

□(5) 本文中から読み取れる「私」の思いとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 異なる部族の物の考え方、判断の仕方を知るためには、その部族の言語を知っているということが何よりも大切だ。

イ 異なる部族と同じ言語で会話する場合には、相手を傷つけることのないように自分の感情を押し殺さなければならないことがある。

ウ 異なる部族同士が同じ場所で生活する場合、物の考え方や判断の仕方は理解し合えても、風俗習慣は理解し合えないことがある。

エ 異なる部族と話す場合、相手の属す生活習慣を知らないと、言葉が通じるゆえに、かえって相手を傷つけることが多々ある。

--